

# 堤内へのイノシシ侵入対策について

令和8年1月14日  
東部環境管理事務所

加須市や利根川上流河川事務所では、堤内にイノシシを侵入させないために、渡良瀬川や利根川堤外地において、①イノシシの生息環境をなくするための除草、②侵入防止のための堤防の除草、③捕獲のための箱ワナの設置などに取り組んでいます。

また、渡良瀬遊水池連携捕獲協議会では、令和6年度の調査で1044頭生息している渡良瀬遊水池において、隣接する市町と連携し500頭の捕獲を目標に取り組んでいます。

地域の皆さんも、イノシシを堤内に侵入させないように、侵入防止対策に取り組みましょう。

## 1 イノシシの特性

- (1) イノシシは「昼行性」の動物で、「イノシシは夜行性」は間違いで、夜間の活動が多いのは強い警戒心によるもので、人間に馴れて安全が確保されれば昼間活動するようになります。
- (2) 食性は、雑食性だが、植物主体のデンプンを栄養源とし、チガヤやヤマノイモ、クズやクロバーなどのマメ科植物の地下茎を食べるために掘り起こしをしており、「ミミズを食べるために掘った」との声は、間違った思い込みで、ミミズは好きではないことが判明しています。(春はタケノコ、秋は稲モミ)
- (3) 繁殖期は晩秋～初春、出産は5月頃です。晩秋になると成獣のオスは発情しメスを求めて広範囲を動き回ります。妊娠期間は120日(約4ヵ月)程度で春に4～5頭の子を産むため、捕獲効果が出にくい要因です。



## 2 堤内に侵入させないために、取り組むこと。

- (1) 「ひこばえ」は、早めに耕耘し、すき込みましょう。

水稲収穫後の「ひこばえ」は、イネカメムシやヒメトビウンカの生息場所となり、翌年の発生量に影響するので早めに刈取りやすき込み等を行います。北川辺地区の「ひこばえ」の糞は、既に充実しており、イノシシの「エサ」になるので、至急、耕耘すき込みを行い、稲穂をしっかりと埋没させます。



(本郷地区の水田、令和5年10月23日撮影)

- (2) 「カキ」等の果樹は、収穫や伐採等適切に管理しましょう。

今年は、「カキ」がたくさん実っており、イノシシにとっては冬を乗り切る重要なエサとなり、呼び寄せの大きな要因となります。

各個人の「カキ」は残らず収穫したり、地域にある放任果樹などは、地域ぐるみで確認し伐採や収穫など行ったり、また、廃棄した果樹や野菜は、「エサ」となるので、捨てないように心がけましょう。



- (3) 耕作放棄地などイノシシの侵入場所をなくしましょう。

イノシシの目線は、成獣で高さ50cm程度です。この目線より植物が高くなると、イノシシは、自分が隠れているものと安心し行動が活発化します。そのため、雑草は、20cm下に管理します。また、竹やぶも除去しましょう。